鉄道車両における輪軸組立時の不適切事案とその対応について

国土交通省

資料１－３

1. 概要

7月24日に発生した山陽線列車脱線事故の調査過程で、JR貨物による記録簿の改ざん等の不適切事案が判明。その後、全国の鉄軌道事業者に対し輪軸に関する緊急点検を指示したところ、輪軸組立時のデータ改ざん等の不適切事案が複数の事業者で行われていた。

2. 不適切事案の判明経緯等

【JR貨物】

・9月9日　JR貨物から国交省に対し、輪軸組立作業における不適切事案を報告。国交省からJR貨物に対し、不適切事案等について、緊急点検及び9月20日までの報告を指示。

・9月11日　JR貨物が、一時全列車の運行を停止。

・9月11日～　JR貨物に特別保安監査（本社、輪西・大宮・川崎・広島の各車両所）。

【その他の事業者】

・9月12日　全国の鉄軌道事業者に対し、輪軸の緊急点検及び9月30日までの報告を指示。

（緊急点検の過程で、以下の事業者等から、不適切事案の報告があったため、特別保安監査を実施。）

・9月19日～　東京メトロ、メトロ車両に特別保安監査。

・9月20日～　京王電鉄、京王重機に特別保安監査。

・9月24日～　JR東日本に特別保安監査。

・9月30日～　東急電鉄、総合車両製作所に特別保安監査。

3. 緊急点検結果概要

緊急点検の対象となる鉄軌道事業者計156事業者のうち、

（1）不適切な事案が確認された事業者は計91事業者。

（2）そのうち、改ざんが確認された事業者は計50事業者。

　※ 改ざんを行った事業者等としては、JR東日本、JR貨物、メトロ車両（3事業者）、京王重機整備（26事業者）、総合車両製作所（27事業者）

　注）重複もあるため、合計は一致しない。

（3）安全に運転することができる状態でない車両を使用している事業者は無し。

4. 緊急安全統括管理者会議（9月30日）

斉藤国土交通大臣出席のもと、緊急安全統括管理者会議を開催。

（1）安全に係る最近の動きに関する情報共有と今後の取組

　①輪軸の安全性について

　　➢ 緊急点検結果（速報）

　　➢ 輪軸の安全性に関する検証会議　等

　②その他（保守用車に関するトラブル等）

（2）大臣訓示

訓示を行う斉藤国土交通大臣

5. 鉄道車両の輪軸の安全性に関する検証会議（10月30日開催）

鉄道車両の輪軸組立時の圧入作業における安全性の確認方法等について検証するため、標記検証会議を開催。

座長：須田　義大（東京大学　生産技術研究所　教授）

委員：道辻　洋平（茨城大学大学院　理工学研究科工学野　教授）

　　　手塚　和彦（(株)テス　取締役相談役）

　　　石毛　真　（鉄道総合技術研究所 車両技術研究部 主管研究員）

　　　ほか　メーカー、鉄道事業者等

（1）鉄道車両における輪軸組立時の不適切事案等について

（2）輪軸の緊締力の確保について

（3）JISの規定による数値を超えた場合の取扱いについて　等